

問1 聖徳太子が「十七条の憲法」の制定や「冠位十二階」の制度を導入した背景にある、当時の政治的な狙いとして最も適切なものはどれですか。（2017年 沖縄公立入試 類似）

1. 特定の豪族が代々高い位を独占する仕組みを強化し、政権を安定させるため
2. 仏教の影響を排除し、神道に基づいた古くからの統治方法を復活させるため
3. 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な政治体制を整えるため
4. 農民に土地を分け与える班田収授法を施行するための、全国的な戸籍を作成するため

問2 聖徳太子が法隆寺を建立した背景にある、この時期の文化的な特徴として最も適切な説明を選びなさい。（2015年 長崎県公立入試 類似）

1. 仏教が本格的に受容され、大陸の建築様式を取り入れた寺院が国家や有力者によって建設された。
2. 国風文化が発達し、寝殿造と呼ばれる日本独自の貴族建築が広く普及した。
3. 武士が政権を握ったことで、質実剛健な禅宗の影響を強く受けた寺院が好まれた。
4. キリスト教の影響を受けた南蛮文化が流入し、石造りのドーム型建築が各地に築かれた。

問3 7世紀後半、日本が対馬や九州、瀬戸内海沿岸などに「山城」を築き、大規模な国防強化を行うこととなった直接の理由として正しいものはどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）

1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。
2. 蝦夷（えみし）との戦いが激化し、東北地方の支配権を確立するため。
3. 平将門の乱や藤原純友の乱が発生し、地方の治安が急速に悪化したため。
4. 遣唐使を廃止したことで唐との国交が断絶し、緊張状態が高まったため。

問4 6世紀末に中国を統一した王朝であり、聖徳太子が摂政を務めていた607年に、小野妹子らが使者として派遣された先である王朝名として正しいものを選びなさい。（2026年 長野公立入試 類似）

1. 隋
2. 秦
3. 唐
4. 宋

問5 日本最古の銅銭とされる「富本銭」に関する説明として、歴史的な背景や事実に基づいた適切な記述はどれですか。（2023年 佐賀公立入試 類似）

1. 天武天皇の時代に製造され、近年の遺跡調査によって和同開珎よりも古いことが確認された。
2. 元明天皇が平城京への遷都に合わせて発行し、役人の給与として初めて全国に普及した。
3. 平安時代に唐から輸入された貨幣をモデルにして、日本国内で初めて流通した鉄銭である。
4. 室町時代に足利義満が明との貿易を行うために、中国から輸入して国内の市で使用させた。

問6 飛鳥時代において、朝鮮半島から伝来した新しい宗教である仏教を積極的に受け入れ、聖徳太子（厩戸王）と協力して政治改革を推進した有力豪族を答えなさい。（2022年 岩手県公立入試 類似）

1. 蘇我氏
2. 藤原氏
3. 平氏
4. 北条氏

問7 7世紀初め、聖徳太子（厩戸王）らが中央集権的な国家体制を整えるために定めた、個人の才能や功績に応じて位階を授ける制度を何といいますか。（2022年 宮城県公立入試 類似）

1. 冠位十二階
2. 十七条の憲法
3. 公地公民
4. 班田収授法

問8 天智天皇が「庚午年籍（こうごねんじやく）」と呼ばれる日本で最初の全国的な戸籍を作成した最大の目的は、どのような点にありましたか。当時の社会背景を踏まえて、最も適切な理由を選びなさい。（2018年 埼玉県公立入試 類似）

1. 全国の人民の名前や住所を把握することで、公平に土地を分け与えるとともに、兵役や税を確実に課すための基礎とするため。
2. 仏教による国家の安定を目指し、全国の寺院に住む僧侶の数や修行の状況を把握して管理するため。
3. 遣隋使や遣唐使として渡航する優秀な人材を見極めるため、氏姓制度に基づいた豪族の家系図を整理するため。
4. 大規模な干拓事業や東大寺の建立にあたり、必要な労働力を確保するために浮浪化した農民を強制的に連れ戻すため。

問9 朝鮮半島で高句麗・新羅・百済が勢力を競っていた時代の文化交流について、百済から日本へ仏教が伝えられた主な理由として考えられる、当時の国際情勢を反映した説明はどれですか。（2023年 福井公立入試 類似）

1. 百済が新羅や高句麗に対抗するため、日本との軍事的・外交的なつながりを深めようとした。
2. 新羅が仏教を禁止したため、百済が周辺国へ仏教を避難させる必要があった。
3. 高句麗が中国と協力して日本を攻撃しようとしたため、百済が日本に降伏を勧めた。
4. 日本が朝鮮半島全体を支配下に置いたため、百済が貢ぎ物として仏像を献上した。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 3</b> 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な政治体制を整えるため	当時は蘇我氏などの有力豪族が政治の実権をめぐって対立していました。聖徳太子は、家柄ではなく才能や功績に応じて位を与える「冠位十二階」や、役人の心得を説く「十七条の憲法」を定めることで、豪族中心の政治から天皇を中心とするまとまりのある国づくりを目指しました。
問2	<b>答え 1</b> 仏教が本格的に受容され、大陸の建築様式を取り入れた寺院が国家や有力者によって建設された。	法隆寺が建立された飛鳥時代は、聖徳太子の執政のもとで仏教を中心とした「飛鳥文化」が花開いた時期です。百済（朝鮮半島）などを通じて伝わった大陸の高度な建築技術や仏教信仰が、日本の統治体制や文化の形成に大きな影響を与えたことを象徴しています。
問3	<b>答え 1</b> 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。	百済の復興を支援するために朝鮮半島へ送られた日本軍が、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗したことが発端です。この敗北により、当時の指導者であった中大兄皇子は、勝利に乗じた唐などが日本へ攻めてくることを恐れ、国家の存亡をかけて防人や山城による防衛線を作り上げました。
問4	<b>答え 1</b> 隋	589年に中国を統一した隋に対して、聖徳太子は小野妹子を遣隋使として派遣しました。これは当時の先進的な文化や制度を直接取り入れ、国力を高める目的がありました。遣隋使はその後、隋が滅びて唐が成立するまで数回にわたり派遣されました。
問5	<b>答え 1</b> 天武天皇の時代に製造され、近年の遺跡調査によって和同開珎よりも古いことが確認された。	飛鳥時代の天武天皇が「今より以後、必ず銅銭を用いよ」という詔（みことのり）を出した時期と重なる7世紀後半につくられました。1990年代に奈良県の飛鳥池遺跡から、鋳型などの製作道具とともに大量に発見されたことで、和同開珎よりも古いものであることが定説となりました。広く一般の市場で流通したというよりは、国家の威信を示す目的や儀式的な意味合いが強かったと推測されています。
問6	<b>答え 1</b> 蘇我氏	古墳時代末期から飛鳥時代にかけて勢力を伸ばした蘇我氏は、渡来人と結びついて大陸の新しい文化や仏教を積極的に取り入れました。蘇我馬子は聖徳太子と協力し、冠位十二階や十七条の憲法の制定、遣隋使の派遣など、天皇中心の国づくりに尽力しました。
問7	<b>答え 1</b> 冠位十二階	この制度は、従来の家柄によって地位が決まる仕組みとは異なり、個人の実力を評価して役人を登用することを目的に導入されました。儒教の徳目に基づいた名称の冠を授けることで、官僚組織の基礎を築こうとした飛鳥時代の重要な改革の一つです。
問8	<b>答え 1</b> 全国の人民の名前や住所を把握することで、公平に土地を分け与えるとともに、兵役や税を確実に課するための基礎とするため。	大化の改新から始まった「公地公民」の原則を具体化するためには、政府が直接人民を把握する必要がありました。天智天皇が作成した庚午年籍は、人民に口分田を与えて耕作させ（班田収授）、代わりに税（租・庸・調）や兵役（防人など）を課するための台帳として機能しました。特に当時の日本は唐や新羅の脅威にさらされていたため、兵力を確保するための人民把握は急務でした。
問9	<b>答え 1</b> 百済が新羅や高句麗に対抗するため、日本との軍事的・外交的なつながりを深めようとした。	6世紀の朝鮮半島では、高句麗、新羅、百済の三つの国が激しく対立していました。百済は軍事的に有利な立場を築くため、日本との友好関係を重視しました。そのため、当時の先進文化であった仏教を日本へ伝えることで、外交的な信頼関係を築き、日本からの支援を得ようとする意図があったと考えられています。